公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まくらぎ子ども発達支援センター すまいる		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 29日		令和7年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 29日		令和7年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	児童発達支援計画策定にあたり療育スタッフとアセスメント情報及び抽出されたニーズの共有の後、療育プログラムに沿った支援が行われている。	個々の発達状況の詳細を把握するためのアセスメント様式の他家庭生活の現状を把握するためのアセスメントシートを保護者と共同で行っている。家庭や保育園・療育機関等全般的な情報収集および分析から課題を抽出している。
2	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか	療育支援にかかる専門的研修への参加がなされている。また、特別支援学校や医療機関等々との連携を図るための各種研修会や行事等への参加もなされている。	事業所全体の質の向上を図るために、医療的ケア児支援者研修、児童発達支援管理責任者研修、強度行動障害者支援者研修等専門研修受講や資格取得のための研修受講がなされた。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	第三者評価への取り組みは行われていない。	施設管理者が鹿児島県の第三者評価調査員としても第三者評価事業に関わっていることもあり内部的な検討となっている。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	新型コロナウイルスへの対応から地域との連携のありかたを模索している状況が継続している現状がある	学校行事や療育計画等考慮しながら、地域に開かれた事業所としての取り組みを考えていきたい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 まくらぎ子ども発達支援センター すまいる (方デイ)

公表日 令和7年 2月 27日

利用児童数 26名

回収数 23名

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	3		3		○専門職の業務内容や加配の仕組み等説明を加えていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23				○その日に合わせて活動を変えており、とても柔軟性があると思います。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21			2		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21			2		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22			1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	2				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	12	3	1	7		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22			1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	23					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	2		1		○保護者会の中で保護者同士の交流の場を設けているが、内容の検討を行いながら「保護者同士の連携」につながるよう支援していきたい。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22			1		
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23						

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	1		1	○毎月の「すまいるだより」にて活動報告や行事の実施報告、行事予定等情報発信しているがホームページでの自己評価の結果報告書については説明の機会も設けたい。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	21			2	○BCPの策定がなされ昨年は保護者も参加しての訓練を行ったが、今後も開催方法を検討して更なる周知と内容の充実に努めていきたい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20			3	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	1		2	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22			1	○事故等が発生したことがないので、わかりません。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22	1			
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	2			
	29	事業所の支援に満足していますか。	23				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	まくらぎ子ども発達支援センター すまいる (方デイ)				公表日	令和7年 2月 27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	○訓練室他利用定員に対応した適切なスペースが確保されている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○	○基準配置に加配した職員数を確保している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○	○子どもにわかりやすく、自発的に動ける空間となるように設計されている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○	○キャリアパス制度が導入されており取り組みがなされている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	○評価表の活用になり、保護者の意向等を事業改善に役立てている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	○第三者評価受審に向けての体制強化を進めていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○	○内部研修・外部研修等への参加機会を確保し、参加者から全体への伝達講習も合わせて行っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○	○障害特性に応じた個別のスケール等も加えた適切なアセスメントにより、個別支援計画の策定を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	○標準化されたアセスメント様式を導入し適切に実施している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	○個別支援経過の策定については情報の分析や課題の抽出が各領域ごとに詳細情報の把握が可能となるよう細やかなアセスメントを行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	○活動プログラムについては子どもの発達の確認を行いながらスタッフの協議の立案をしている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	○個々の発達に応じた活動プログラムを段階的に提供しており、プログラムが体系的提供されるように工夫している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	○日々の療育においても障害特性に応じた個別化と相互交流による効果を目的とした集団生活を適切に組み合わせしている。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		○担当者会議で提供された情報をスタッフ間で共有し、支援内容の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		○送迎時間等の関係で当日の打ち合わせは難しいため、後日共有が行われている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		○「療育日誌」で日々の記録を行い、スタッフ個々の端末にてデータ共有がなされている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		○モニタリングの実施により、放課後等デイサービス計画の見直しを行い、その必要性を判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○			○ガイドラインの基本活動を基準として個々の発達に応じた支援を行っている。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		○療育担当職員が児童発達支援管理者の参加で調整を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		○学校の週間予定表を共有し、行事や送迎時間の確認を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		○担当者会議等において情報の共有を図りながら相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			○事業開始から間もなく、学校卒業事例を有さない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○		○地域の他機関との交流を目的に児童館や放課後等児童クラブへ出かけて行った。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		○自立支援協議会の中で「評価ツール」の開発を行政や関係機関と協働し取り組んでいる。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		○子どもの状況を連絡帳等活用して伝えることにより共通理解を図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		○校区ごとのグループにより家庭療育が学校での課題等についてグループワークによるペアレントトレーニングを行った	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		○利用契約にあたり個別に説明の機会を設けている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		○保護者からの悩みについては、事業所内での直接的な相談や連絡帳を活用しての助言、メールでの対応等柔軟に対応している。	○子育ての悩み等発信してくださる方には対応できているが、潜在的なニーズへの対応を検討していきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		○「苦情受付マニュアル」の中でその対応について体制を整備し、対応がなされている。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		○月初めに「すまいるだより」を発行し、活動概要や行事予定などの情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		○個人情報については、「個人情報保護管理規定」に従ってその管理に十分に注意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		○「連絡帳」や「メール」、「お便り」等で随時意思の疎通や情報共有を図っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		○「BCP」が整備されており一部保護者を交えての訓練の実施もなされているが、保護者への周知と活用については今後積極的な取り組みを進めていきたい。	○個別の避難計画策定に向けて保護者への周知とBCPの共通理解が図れるような取り組みを工夫していきたい
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		○定期的に訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		○家族と協働してのアセスメントとなるようアセスメントシートを工夫している。アセスメントにて確認して対応している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		○アセスメントにて確認して対応している。	○現在食物アレルギーのある子どもは通っていない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			○ヒヤリハットの様式は整備されており、専用のファイルで内容の共有が図られている。今後は「分析」「対応」についてさらに進めていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		○法人内の他の事業所と同時開催し、「虐待防止」への意識向上を図っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		○身体拘束を必要とする事例はない。今後の例で保護者を含めての組織的対応が必要な事案が生じた場合は身体拘束を行わない療育を専門的に検証したい。		